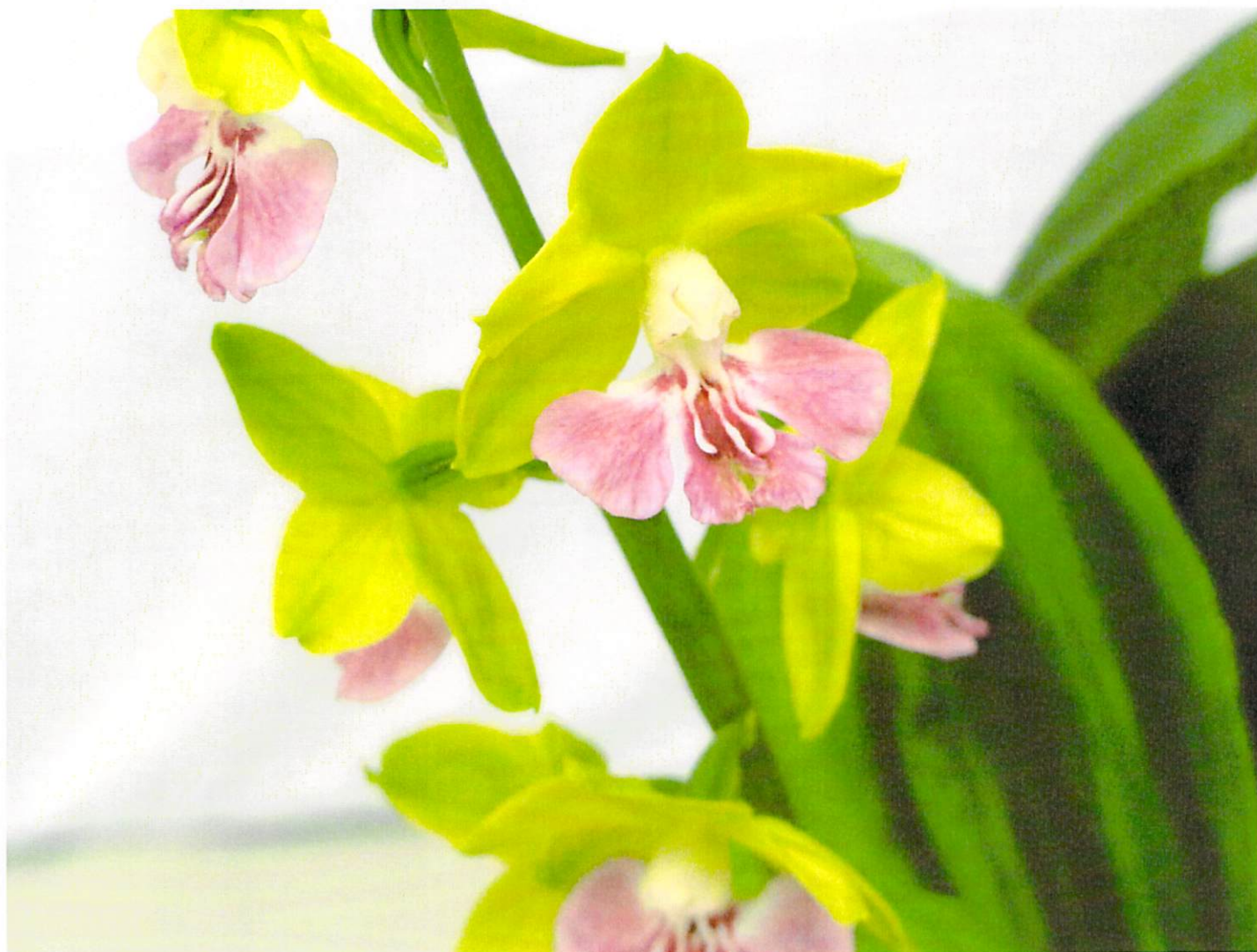


SHONAN KAMAKURA general hospital

神奈川県鎌倉市岡本1370-1

0467-46-1717

<http://www.sk-blood.com>



撮影 田中江里

溶血性貧血をきたす感染症 クロストリジウム感染症

抗生剤を長期投与することで腸内細菌のバランスが崩れておきる下痢のことを聞いたことがあるかたも多いだろう。その原因となるのがクロストリジウムデیفシルという菌による毒素である。

腸内に存在する細菌、このクロストリジウム属。消化管に常在していて腹部のその他の感染でも問題となる菌である。腸管の穿孔(穴があくこと)がリンパ腫や大腸がんなどが原因で起きることがある。その際に問題となる菌であるし、また重篤な腸管粘膜障害(抗がん剤などで)のあとの菌のtranslocationで問題となったりもする。

婦人科関連の感染症もおきる。

さて、これらの感染症の中でも最も重要なのがウェルシュ菌(*Clotridium perfringence*)と*C. septicum*。

腸内に存在するこれらの細菌は化膿を引き起こす毒素を産生するし、食中毒の原因にもなる。

その毒素の中のレシチナーゼという毒素が赤血球膜を破壊するので、溶血性貧血を起こすことがある。

重症の腹部感染症と重度の溶血を伴っていたら、クロストリジウム敗血症を考える必要がある。

[2017/2/4 江里ブログより]

March

3

江里ブログ